

# MY PRIVACY

## 勝山 眸美

(オリコ)

かつやま  
ひとみ

1994年5月21日生まれの24歳。埼玉県久喜市出身。161cm、75kg。栗橋東中、進修館高、筑波大を経て2017年にオリコ入社。人事部のダイバーシティ推進室で勤務している。

女子ハンマー投で高校記録を2度塗り替える(56m37、56m46)など、ジュニア期から第一線で活躍しているスローワー。昨年8月のアジア大会では、日本勢5大会連続となる銅メダルを獲得。勝山にとっては前年のアジア選手権の銅に続く、2年連続でアジアの表彰台に上がった。日本選手権は2連覇中で、自己ベストは日本歴代4位の65m32。

小学生の時は「脚が速くて」、近隣の学校が集まる陸上大会になると、リレーや走高跳に出ていた。中学で転向した砲丸投で全国レベルの選手となり、中1のジュニアオリンピックで優勝している。ただ、全中では成績が振るわず3年時の9位が最高。入賞(8位)まであと2cmという悔しさも味わっている。そんな苦い記憶もあったが、高校でハンマー投を始めると1年時に日本ユース選手権を制して復権した。

占いに興味があり、星座や九星気学などで自分の運勢を見て、「今の自分にじっくり来るもの参考しています」。今年は人との交流が運氣アップにつながるらしい。「競技面ではいろいろな方からのアドバイスが必要かもしれませんね」と話していた。

### 「感動のあまり、応援メッセージが書かれた日本国旗を……」

月刊陸上競技の読者の皆さま、こんにちは。株式会社オリエンコーポレーション(以下、オリコ)の勝山眸美です。2017年に筑波大を卒業し、その後はオリコに勤務しながら、現在も筑波大を練習拠点として競技を続けています。

私がハンマー投を始めたのは、高校からです。それまでは、中学校で砲丸投をやっており、全国大会にも出場していました。ですが、だんだんと記録が伸び悩み、気持ちが離れていってしまっ……。何か新しいことを始めたいと考えていた3年生の頃、同じ中学の先輩から「指導が上手でおもしろい先生がいる学校がある」と紹介されたのが埼玉県立進修館高校でした。早速、部活動の見学に片道1時間半をかけて向かうことになり、そこで初めて目にしたものが「ワイヤーのようなものに鉄球が付いている物体をくるくると回って放り投げる」というものでした。ダイナミックかつスピード感あふれるハンマー投に一目で心を奪われ、運命的な出会いを感じた私は、すぐさま進修館高校への進学を決意しました。ここから私の青春はすべて、ハンマー投に捧げることになります。

大学生活はとても刺激的な毎日でした。筑波大学には、これまでに出会ったことのないような、良い意味で個性的な方々がたくさんいます(笑)。新しい考えや知識に触れ、自分自身の成長を感じることができました。競技に関しては関東インカレ4連覇、日本インカレ2度優勝など結果を出しましたが、学生記録(64m43)を更新できなかったことが、唯一の心残りです。

大学卒業後の進路は、たいへん悩みました。私の中で、競技を続けていくということが大前提にあったので、問題は「どのようなかたちで続けてくのか?」ということでした。選択肢としては、「大学院に進む」か、「陸上競技部のある企業に就職する」の2択だったのですが、後者はなかなか難しいのが現実です。そこで、大学院を受験することに決めたのですが……、結果は不合格でした(笑)。

ですが、不思議と気持ちはすっきりしていて、きっと心のどこかでは「何か違う」と感じていたのかもしれない。とは言え、後がなくなった私は、以前から少しお話をいただ

いていた日本オリンピック委員会(JOC)のアスナビにお世話になることにしました。アスナビとは、企業とアスリートをマッチングする就職支援制度のことです。私がこの活動を本格的に始めたのは、4年生の10月頃と遅く、焦りもあり、不安な気持ちでいっぱいでした。ですが、JOCの方々がこちらの要望等を親身になって聞いてくださり、また熱心に動いてくださったこともあって、その不安も解消されました。そして、タイミング良くオリコに採用いただける運びとなりました。

入社後は競技に打ち込みながら、社員の皆さんに向けて健康増進を目的としたエクササイズを同僚のアスリート社員とともに企画・実施しています。たとえば、イスに座りながらできる簡単な体操を社内ビデオにて配信したり、お昼休みの時間にバランスボールやゴムチューブを使ったエクササイズ教室を開いたりしました。自身の経験を仕事に生かすことができるこの環境に日々、感謝しています。

オリコはとても温かい会社です。試合にも大勢の社員のみなさんが、応援に駆けつけてくれます。社内でお会いした際にも、たくさ

んの「おめでとう」や「がんばってね」という励ましをいただきます。また、アジア選手権やアジア大会出場時に壮行会を開いてくださったのですが、その際にいただいたのが、応援メッセージが寄せられた日本国旗が3本。感動のあまり、現地に持って行って、枕の下にその旗を挟んで寝ていました。社員の皆さんからいただいたこの感動を、今度は私が皆さんに返していきたい、心の底から「がんばろう」と思いました。よく、応援や期待をプレッシャーに感じてしまう人もいるかもしれませんが、私の場合はそういったプレッシャーがあればあるほど、力になるタイプだと思います。

現在の私の目標は、日本記録の更新や五輪出場です。簡単な夢ではありませんが、今の自分ができる精一杯のことをやっていると。また、ゆくゆくは「女子ハンマー投界を引っ張っていきけるような存在になりたい」と考えています。日本人でも「ここまで投げられる!」という距離を1mでも伸ばし、次の世代を担う人たちの可能性の幅を広げたいのです。これからの日本女子ハンマー投界の発展を願って。



勤務先となっている東京・麹町の本社で、1時間半かけて通勤しています